

## 農村部におけるベトナム赤十字社の実態と課題に関する一考察

### —ベトナム赤十字社のソーシャル・サポートシステムの構築に向けて—

東北福祉大学 赤塚 俊治 (73)

キーワード：ベトナム、赤十字社、ソーシャル・サポート

#### 1. 研究目的

ベトナム社会主義共和国 (Socialist Republic of Vietnam;以下ベトナムと略す) における社会福祉研究活動は、1993年から継続してきた。この間、1998年、2011年には、ホーチミン市 (Ho Chi Minh City) のベトナム赤十字社と農村部のビントゥアン (Binh Thuan) 省ハム・タン (Ham Tan) 県にあるラ・ジ町 (La Gi) 支部で在外研究員として、貧困家庭、障害者、高齢者に主眼をおきながら研究活動を実施してきた。拙稿した論文には調査研究の研究成果として都市部と農村部の地域格差、所得格差および家族機能の希薄化によって農村部で暮らす貧困家庭、単身高齢者、障害者を取り巻く生活 (教育も含む) では、さまざまな社会問題が生起していることを論じている。

本発表では、農村部で行政の補完的役割を担っているベトナム赤十字社の支援活動の実態と課題を通して、ソーシャル・サポートの構築について論考することを目的とする。

#### 2. 研究の視点および方法

ベトナムでは、人口の約80%の国民が農村部で暮らしているが、農村部に暮らしている国民ほど、ベトナム社会主義共和国憲法 (以下憲法と略す) 第52条「すべての人民は法の前で平等である」と謳われているものの、これまでの調査研究では国民生活の実態と大きく乖離している。さらに、今日のベトナム経済は、一時期の経済成長はなく、むしろ、厳しい経済状況下にあるために、農村部で支援活動を展開しているベトナム赤十字社の役割は住民にとって重要な機関になっている。ベトナム赤十字社の目的は、都市部、農村部に限らずベトナム政府が定める法律に基づいて、社会群衆の組織、慈善事業、平和、友好活動の目標および国民の幸福、文明、民主、公平社会、強国の目標を実現することであり、ベトナム憲法および法律遵守することも明文化している。しかし、都市部のベトナム赤十字社の取組みと農村部のベトナム赤十字社とでは、大きな違いが存在している。特に、農村部ほど専門職としての意識は低く、また、専門的知識や技術を学んだ人材は皆無に等しい。このような要因から、専門的なソーシャル・ワークが展開されていない実態がある。そこで2012年9月にベトナム赤十字社ラ・ジ支部のスタッフを対象に実施したアンケート調査結果を基にしながら、ソーシャル・サポートシステムの重要性を明確化する。

#### 3. 倫理的配慮

調査は事前に対象者に趣旨と概要を説明し承認を得た上で無記名・任意回答で行われた。

#### 4. 研究結果

人道的任務を達成することを最大の目的としているベトナム赤十字社は、ドイモイ政策

が導入してから、業務活動は大きな転換期を迎えた。その原因として、都市部と農村部との社会経済格差が拡大し、農村部では経済発展の恩恵は少なく、むしろ、新しい社会問題を生起させる要因となり、農村部で暮らす住民の生活が変化したことで生活環境や家族関係および人口動態のゆがみなどにも影響をもたらした。農村部の社会変動に対してベトナム赤十字社は、都市部と比較して社会資源が不足している現状のなかで任務を遂行しなければならなかった。農村部の赤十字社が任務を遂行する上で中核的思想として、相互扶助はもとよりC B R（地域リハビリテーション）の考え方が重要視されているが、専門的知識や技術を兼ね備えた人材は限られている。そこで社会資源をさらなる有効活用をしながらソーシャルワーカーとしての資質的向上をめざすための方法として、ソーシャル・サポートのネットワークを積極的に導入することは効果的であると推考される。その根拠として、これまでに実施してきた農村部での社会福祉調査研究から浮き彫りになったキーワードに「孤独感」「疎外感」「失業」「貧困」「家族」があげられる。ソーシャル・サポートの定義には、研究者によってはさまざまな概念規定が存在しているが、そのなかで共通認識として①情緒的サポート（共感、信頼、尊敬、安心の提供）②情動的サポート（個人的悩み、人間関係などの問題解決に役立つ情報と助言の提供）③道具的サポート（労働力・仕事や日常生活で具体的サービスの提供）を人間安全保障という観点からソーシャル・サポートネットワークを構築できる体制を推進することが求められる。多数のスタッフが調査票に「専門的知識・技術を学びたい」「パソコンを学びたい」「健康医療・介護を学びたい」と記述しており、さらには「専門職として仕事がしたい」と回答している。スタッフの資質的向上を図ることはソーシャル・サポートネットワークの構築にも反映されると推考される。それゆえ専門的実地研修の継続的確保はもとよりソーシャルワーカーとしての社会的地位の向上はもとより労働条件の改善を全国規模で実施することは重要な課題である。

## 5. 考察

ベトナム赤十字社ラ・ジ支部は1978年に設立され、16名が9地域に配置されて仕事をしている（2012年9月現在）。スタッフ全員は、他の仕事を掛け持ちしている。その理由は、「現在の給料では生活が維持できない」と回答している。上級クラスで1ヶ月平均給料は200万ドン、その他のスタッフの平均給料は110万ドンである。4人家族が生活維持するためには平均600万ドンが必要とされていることから理解することができる。また、政府のND92/CP規定により町の赤十字社幹部やスタッフの仕事は本職として認められていないことも要因にある。財源はベトナム政府から支援金はあるが、全体運営に必要な資金は足りないために地域住民の寄付金・物資の援助に頼るのが実情である。仕事内容は緊急救助と人道支援にわけられているが、実際は完全に遂行されてはいない。スタッフの怠慢さではなく職の不安定にあり、そのためには専門職としての職域・地位を強化させながら、ソーシャル・サポートネットワークの構築を確立させることである。

※本研究は JSPS 研究費 24530720 の助成を受けたものです。